

新しい大阪へ11・22W選

橋下「維新」政治

私は堺市民です。2013年の堺市長選で、堺市は「大阪都」構想を引っ提げた大阪維新と対峙（たいじ）しました。「都」構想で、自分の暮らしや生活が壊されてしまうと危機感を抱き、市長選に関わるようになりまし。

仕事や介護、子育て、勉強をしながらのハードな選挙戦でしたが、みんなの努力のかけあって「都」構想を追い出すことができました。

望む方向へ変化

竹山さんが当選して終わりではありません。自分たちが選んだ代表が良いことをすれば賛辞を送り、悪政を働けば厳しく追及する。

私も含め、投票以外で選挙に関わったことのない人たちが大勢、竹山修身市長を応援しようと立ち上がりました。私は、竹山市長が大好きで、ずっと応援してきましたわけありません。しかし、大阪維新の暴挙を止めたと思います、みな同じでした。



自分たちの手で代表育てる

自分たちの手で暮らしを形づくるのと同じように、自分たちの手で代表を育てるのです。

竹山市長の下では、国保料の値下げや大型開発の白紙撤回、東北高速鉄道の料金の値下げなど、私たちの生活が望む方向に少しずつ動いているように感じられます。

私たちが、市長を自らの意思で選んだと自覚し、自分たちの暮らしに声を上げることができているからだと感じています。

市民のパートナーである代表と手を取り合い、共に成長し、誰もが安心して暮らせる、より良い社会を構築し続けていきたいです。

今回、くりはら貴子さん、柳本あきらさんは、私たちと一緒に、私たちの声を聞き、住みよい大阪をつくろうと訴えています。

市民の暮らしをつくるのに、市民の声にきちんと耳を傾けるのは当たり前のことです。私たちの側にも、誰が市民の声に耳を傾けているのか、丁寧に聞いていく必要があります。

すごく大変で面倒な作業です。慣れないし時間もかかります。でも、それが暮らしをつくる基礎となり、今後も私たちの代表を選ぶ上での大きな財産となるはずですよ。私は、大阪維新によって壊されてしまった民主主義と生活を、くりはらさんと柳本さんと一緒に取り戻したいです。

(3日、大阪市内での街頭宣伝で)

面倒な作業でも

橋下(徹大阪市長)さん はかつて、「政治には独裁が必要だ」と言いました。維新は、公然と議会を無視し採決を強行したこともありま。議会を無視したということは、市民の声を無視したということです。

私たちの暮らしをつくる政治の主人公は、私たち市民です。私たちの暮らしを自由に築くのは当たり前なこと、一緒にそれを手伝ってくれる人を選びたいです。

SADL (有志) 志守 義主 生活 (民主)